



速報 第15号

2016年10月30日

第46回全国ろうあ女性集会 in 鹿児島

夢・ときめきを未来へつなげよう！鹿児島から

噴き上がれ 桜島のごとく 熱き想いを仲間と語り 未来への懸け橋となろう！



2016年10月28日(金)~30日(日)

発行：第46回全国ろうあ女性集会 鹿児島県実行委員会 (一社)鹿児島県聴覚障害者協会女性部

所在地：〒890-0021 鹿児島市小野1丁目1番1号 ハートピアかごしま 3階 (一社)鹿児島県聴覚障害者協会

問合せ：TEL 099-228-2016 FAX 099-228-6357 E-Mail : main@kagoshima-deaf.jp

Site : <https://the46thdeafnessnationalwomanmeeting.wordpress.com>

第1分科会「家庭と教育」 報告

助言者：小中 栄一 氏

座長：本木 美穂・平井 壽子

報告者：本村 順子

小中先生は今年6月の全国ろうあ者大会で、人工内耳について発表した。その後、8月にパブリックコメントで意見を集めて、少し修正したものを講演していただいた。たくさんの知識を得て、理解を深めることが出来た。

「人工内耳?!」みたいな差別的な発言はやめましょう。

人工内耳をしている子もしていない子にも平等に教育をうける環境整備が必要。また医療関係者に対し、全日本ろうあ連盟として正しい理解をしてもらうために働きかけていく。

人工内耳の手術をしても健聴者と同じようになるという過度の期待を持たない様に情報提供していく。そのためにはHP発表するだけでなくパンフレットも作って欲しいという強い要望もありました。

人工内耳が必要な人がいることも理解してほしい。それぞれの苦しみを受け止めて、ろう運動のなかでその悩みを引き出す運動もしなければならない。地域に帰って、女性運動と絡めながら活動してほしい。

第2分科会「暮らし」 報 告

助言者：太田 陽介 氏
座 長：安岡 まち子・神田 朋子
報告者：溝花 征恵

分科会のテーマは「暮らし」

参加者は87名の内に聴者、男性もいました。まず、太田陽介（一財）全日本ろうあ連盟理事が助言者としてミニ講演で「暮らしにおける不便さの対処法とは？」を講演しました。

家の中に不便さが色々あり、例えばショッピングTV、宅急便の対応等にどのように解決できるかを話し合いました。

一般の参加者から不便なことを集めて、このケースを解決できるところもある。まだまだなところがありました。

設備で便利できますが、不便なところは自分で積極的に「耳が聞こえません」を言うように協力し頑張って行きましょう。

不便なケースを集めて、こんなに不便なことがあるだなどびっくりしました。

これから積極的に自分たちの為、活動で頑張って行きたい。

第3分科会「豊かな老後」 報 告

助言者：中岡 正人 氏
座 長：鈴木 奈麻美・河原 理恵子
報告者：村田 美穂子

◎中岡助言者のミニ講演は3回に分けて行なわれ、参加者との質疑応答の形で活発に盛り上がりました。特に盲ろう者からの発言、80代のお元気な方からの発言に対して一つずつ助言者から説明を下さいました。普段の生活の中で疑問に思っている事もたくさん出され、特に医療に関して緊急の通訳派遣に対する発言が多かったです。変わりタネとしてはスポーツ保険に対する質問もありました。全体的にまとめていくとボランティアとしての考え方ではなく、手話ができるプロのヘルパーが必要だということです。

◎「老老介護」にならないためにというテーマにひかれて参加しました。中岡助言者のユーモアたっぷりの話に大笑いしながらも考えさせられた事が多かったです。介護保険制度や盲ろう者支援、土日や夜間の手話通訳依頼に対する質問を聞いて、ホームヘルパー資格を持ち、盲ろう者通訳活動もしている私としては1つ1つ知識を深めないと前に勧められないし、支援もできないと思いました。

ろうあ者はやはり手話のできない方々とのコミュニケーションが取れず、自分の言いたい事が言えなくて我慢するという面があります。豊かな老後を過ごすためには、支援方法をみんなと一緒に考える必要があると思います。